

熊本矯正歯科研究会

NEWS LETTER

令和元年度（秋季）

事務局：きょうごく矯正歯科・小児歯科クリニック内
〒862-0963 熊本市南区出仲間
TEL 096-334-6055 FAX 096-334-6057



令和元年度 熊本矯正歯科研究会（令和元年6月15日）『和敷奇司館ホテル』にて

会長挨拶



熊本矯正歯科研究会会長 やまべ矯正歯科クリニック 山部耕一郎

会員の先生方におかれましてはご健勝にご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、熊本矯正歯科研究会での私の会長職も、あと半年ほどとなりました。これまでの間、理事の先生方や、会員の先生方に支えられて、会も少し前進できたように思います。当初は会則の改定等も行いましたが、年2回の特別講演も興味深い演題で講師の先生方をお呼びすることができたと思います。

ところで昨今の矯正治療のニーズも、多様性を示してきたように感じます。近年の急激な進歩とも言えるネットの普及により、あふれるほどの情報が簡単に手に入る時代となりましたが、正しいものとそうではないものの区別が、むしろ難しくなっているように感じます。我々は矯正歯科の臨床家として、安全性と確実性を追求すべく研鑽を積みながら患者様に、より良い治療を提供していきたいものです。

次回の熊本矯正歯科研究会では、特別講師に北海道旭川市でご開業の上地 潤 先生にご講演頂きます。先生は外科的矯正治療において、三次元診断を取り入れており、興味深いお話が伺えるものと期待しています。

2020年は東京オリンピックの開催と、メモリアルな一年になりそうですが、以前からお伝えしているように、2020年2月8、9日で第15回九州矯正歯科学会学術大会が、市民会館シアーズホーム夢ホール（熊本市市民会館）開催されます。これは熊本の矯正

歯科治療に携わる我々にとってもメモリアルなことだと思います。大会が成功しますように関係者一同、一丸となって準備を進めておりますので、ぜひご期待下さい。

令和元年度前期の主な活動

○ 第16～21回理事会

ほぼ月一回のペースで役員会を行っています。令和元年5月20日、6月17日、7月22日、8月19日、9月9・30日と計6回役員会を開催しております。

○ 歯の祭典

6月9日に歯の祭典が開催され、出務者の山部先生、犬童先生、池上先生、分山先生、京極先生、太田先生、上村先生、近藤先生、平良先生が歯並びの相談を行いました。

○ 令和元年度総会（令和元年6月15日）

和数奇司館ホテルにて、令和元年度総会が開催され、7名（役員・理事除く）の先生にご出席いただきました。委任状36名と執行部を除いた出席者6名計42名、総会員が75名で1/2を超えていることから本総会が成立し、議長に澤木孝明先生、議事録署名人に松岡明子先生・鬼塚研志先生が選出されました。

1) 報告事項

- ・ 総務、会計、ホームページ関連、広報について、それぞれ担当者から報告がありました。

2) 審議事項

- ・ 平成30年度決算の承認を求める件・・・平成30年度決算報告に対して賛成多数で承認を得ました。
- ・ 令和元年度予算案の承認を求める件・・・令和元年度予算案に対して賛成多数で承認を得ました。
- ・ 選挙管理委員会決定の承認を求める件・・・賛成多数で松岡明子先生、泉朝望先生、鬼塚研志先生が承認されました。

3) 報告事項

2020年開催九州矯正歯科学会熊本大会の準備状況について、準備委員会事務局の犬童寛治先生から以下の報告がありました。

- ・ 現段階で6回の準備委員会を開催しています。
- ・ 会場は市民会館（シアーズホーム夢ホール）と国際交流会館を押さえてあります。
- ・ 九州矯正歯科学会熊本大会の準備金の一時立て替えについての報告
- ・ 今の所準備は順調に進んでいますが、今後熊本矯正歯科学会研究会の会員の先生方にも協力をお願いすることがあるかもしれませんのでその際は宜しくお願いいたします。

4) その他

事務局からは、今年度秋の講演会についての報告がありました。



総会時の様子です。

総会に引き続き、会員発表と特別講演会が行われました。

会員発表 『こども歯科・矯正歯科の役割を考える』ふわりこども歯科・矯正歯科 院長 北須賀 通子先生

矯正認定医を取得後、勤務先で一般歯科に携わり、多くの子供を診ていくことで咬合誘導、予防矯正の必要性を強く感じるようになり開業に至ったそうです。最後には症例発表して皆様、熱心に拝聴されておられました。



熊本市市民病院歯科口腔外科部長、太田和俊先生にご講演いただきました。顎変形症の治療の歴史を語られ、なかでも下顎は1957年に口内法による下顎矢状分割法が発表されてからは、応用による術式が多く考案されたそうです。また、固定法もワイヤーからスクリュープレートへと変わり、チタンや吸収性のものまで出来るようになり、熊本市市民病院歯科口腔外科で行っている症例を御講話いただきました。

現在、熊本市市民病院歯科口腔外科では、主に顎変形症に対して実物大立体模型を3Dプリンターで作製し、診断と治療を行った症例を熱く語られ、会場にいた会員の先生方も皆、興味深いお話に惹き込まれていました。

懇親会スナップ



和やかなムードの中、山部耕一郎先生の会長挨拶、御講話いただいた太田和俊先生のお言葉に始まり、篠原正徳先生の乾杯により、賑やかに祝賀会が開催されました。新入会員の分山英信先生のご挨拶後、歓談となり、徳永俊英先生のお言葉を頂戴し、盛会に終わりました。

今後の予定とお知らせ

- 令和元年11月9日（土）に令和元年度熊本矯正研究会・講演会・忘年会にて、矯正治療に於いて三次元矯正診断システムを用いた外科矯正治療でご活躍中の上地潤先生に御講話を賜ります。会員の皆様にも大変興味深い講演になるものと、理事会一同大変期待しております。スタッフお誘い合わせの上ぜひご参加くださいませ。



上地 潤 先生 (Jun UECHI)

略歴：1997年北海道医療大学歯学部歯学科卒業 卒後研修医

1998年北海道医療大学歯学部歯科矯正学講座 臨床研修生

2000年北海道医療大学歯学部附属病院 病院助手

2002年日本矯正歯科学会 認定医

2003年北海道医療大学歯学部歯科矯正学講座 助手

2007年北海道医療大学歯学部口腔構造・機能発育学系歯科矯正学分野 助教

2008年博士号（歯学）取得

2010年北海道医療大学歯学部口腔構造・機能発育学系歯

科矯正学分野 講師 日本矯正歯科学会 指導医

2011年日本デジタル矯正研究会 理事

2012年北海道矯正歯科学会 理事

2016年医療法人社団かさい矯正歯科（旭川市） 副院長

2017年医療法人社団かさい矯正歯科（旭川市） 理事長

現在に至る

講演タイトル「三次元矯正診断システムよる効果的かつ効率的な外科的矯正治療を目指して」

抄録

上顎骨または下顎骨の過成長あるいは劣成長などが原因となり、顎顔面形態や咬合に重度の異常をきたした骨格性不正咬合の治療は、口腔外科と連携した interdisciplinary team approach, すなわち外科的矯正治療の適用となります。外科的矯正治療とは上顎骨と下顎骨の一部を離断して再配置する顎矯正手術と矯正治療を組み合わせた治療法であり、歯列不正や咬合はもとより顔貌も劇的に改善することができます。その反面、診断と治療ゴールの設定には高い精度が求められます。とりわけ顔面非対称など顎顔面骨格の複雑な変形が伴う症例においては、その困難さが更に増大します。

これらの問題に対応するため、私が2016年まで所属した北海道医療大学の顎変形症外来では、外科的矯正治療のためのコンピュータ支援診断・治療計画立案・手術（CAD/CAP/CAS）システムを構築し、試行錯誤を繰り返しながら発展させてきました。これにより矯正歯科医と口腔外科医の診断情報の共有が可能となり、統一見解のもと明確な治療ゴールの設定が三次元ベースで行えるようになりました。

私が約15年間にわたったシステム開発とその運用を通して得られた外科的矯正治療の教訓は、顎間関係とデンタルコンペンセーションを三次元で定量的かつ体系的に理解したうえで治療のゴールを設定することの必要性でした。具体的には、患者の顎顔面骨格を少なくとも脳頭蓋、上顎骨、下顎骨、上顎歯列、下顎歯列の5要素に細分化して各要素間の最適な相対的位置関係を究明すること、そして、口腔外科医と矯正医がそれを実現する顎矯正手術と矯正治療の限界と可能性を検討して治療のゴールを設定することです。

顎矯正手術では、①脳頭蓋と上顎骨、②脳頭蓋と下顎骨、③上顎骨と下顎骨の3組の相対的位置関係を改変します。また矯正治療では、④上顎骨と上顎歯列、⑤下顎骨と下顎歯列の2組の相対的位置関係を改変します。そして、①から⑤の改変の結果として得られるのが、⑥上顎歯列と下顎歯列の相対的位置関係、すなわち咬合関係となります。この最終的ゴールを良好な結果に導くためには、安全かつ正確な顎矯正手術の実施に加えて、デンタルコンペンセーションの除去が挙げられています。

デンタルコンペンセーションとは、顎間関係に著しい不調和が存在する個体においても機能的な口腔環境を維持できるように、代償的に歯の位置や傾斜が変化した状態をさします。したがって、顎間関係を改善する外科的矯正治療においては、歯の代償性変化を除去することが自明であり、矯正医が担う④と⑤の改変において、上下顎歯列を各々の支持骨に対して効率よく調和させることが重要となります。今回の講演では、私たちがこれを実現するために行った試行錯誤の過程を症例供覧しながら紹介するとともに、矯正臨床におけるデジタルテクノロジーのこれからについて皆様と共に考える機会にしたいと思います。

熊矯ホームページは、 <http://kumakyouseiken.com/>

熊本矯正研究会のニュースレターはホームページからもご覧できます。是非ご覧くださいませ。

会費未納の会員の先生方は早急に納入くださるようお願い致します。

（編集；広報担当理事 平良 幸治）